

第9回阿武隈川水系河川整備委員会

【議事概要】

日時：平成24年10月17日（水） 14:00～16:00

議 事

- (1) 阿武隈川水系河川整備計画の変更について
 - 1) パブリックコメントの実施結果等について
 - 2) 阿武隈川水系河川整備計画 [大臣管理区間] (変更原案) について
- (2) 事業評価について
 - 1) 阿武隈川直轄河川改修事業 (再評価)
 - 2) 阿武隈川総合水系環境整備事業 (再評価)
 - 3) 水防災対策特定河川事業 (二本松・安達地区) (事後評価)

【主な意見の概要】

(1) 阿武隈川水系河川整備計画の変更について

意見

パブリックコメントに対する対応については、適切な方法で地元あるいは質問された方に伝わるような方策を考えていただきたい。

質問

パブリックコメントの対応で、阿武隈川水系河川整備基本方針を変更したことからというような記述になっているが、この具体的な変更内容については本文のどこかで触れられているか。

回答

河川整備基本方針の中身は全部同じ内容を河川整備計画の中に記載することにはなっていない。整備計画変更原案の中では20ページの経緯の中で、基本方針の変更内容として、施設画面上の津波水位等の設定、計画高水位の変更等と括弧書きしている。

河川整備基本方針の変更については現在並行して審議されており、基本方針そのものは方針が策定になれば公表される。

意見

基本方針の変更について、全部書くわけにはもちろんいかないが、主に地震を受けて堤防高が変わった、あるいは地盤沈下で変わった、そのようなことはどこかに記載したほうがよい。

(2) 事業評価について

1) 阿武隈川直轄河川改修事業（再評価）

質問

総便益が 23 年度評価と 24 年度評価を見ていると割合大きく変わっているが、1 年でこのぐらい変わるというのは、特に珍しい事ではないのか。

回答

変更の主な要因は、使用している資産データのうちの延べ床面積のデータを、昨年度は平成 7 年に公表されていたデータを用いていたが、今年度は、現時点で最新の平成 17 年度のデータを用いていることである。

平成 7 年当時のデータは、事業主体、家屋、資産等に関して、範囲が 1 km メッシュということで、非常に大きなメッシュ統計であったが、平成 17 年度のデータについては、丁町字単位で、きめ細やかなデータに移り変わっている。そのような違いから、資産の部分の評価が変わってきたというところがある。

2) 阿武隈川総合水系環境整備事業（再評価）

質問

費用対効果が 8.8 と非常に大きい結果となっている。平成 21 年度の結果と比べて便益が大きかったのはなぜか、特に荒川で便益が大きかったのはなぜか、わかるように説明してほしい。また、平成 24 年度に荒川が終了すると残事業の便益が下がったのはほとんどが荒川の便益でこれだけの大きい数字が出てきたのか。来訪者構成比は前回評価時においては平成 5 年～12 年に荒川で実施されたものを基に出しているが、今回は平成 24 年で出したものか、それとも過去のものを含んでこの数字になったのか。

回答

便益が大きくなったのは、WEB アンケートにより整備後に訪れたいという回答により、整備後の増加率が高くなったこと、空間利用実態調査によるアンケートによる来訪者構成比の設定において遠くの方が訪れたいという回答が多かったことからであり、大きな期待、訪れたいという方が多くいたという結果である。また、荒川が終了後に便益が下がるのは、荒川だけが要因ということではないが、どちらかという荒川が多いというのは確かである。来訪者構成比については、過去のものを含んでいる。

3) 水防災対策特定河川事業（二本松・安達地区）（事後評価）

質問

事後評価の際の B/C の結果の考え方を教えて頂きたい。

回答

B/C が 1 を満たしているので、当該事業は投資効果があったと考えている。事後評価の際の費用対効果分析は、新規採択時評価、再評価とは性質が異なると認識している。